

令和3年度学校運営協議会のまとめ

1 学校運営協議会の成果

学校園、家庭、地域の連携が一層深まり、地域総がかりの教育を実現するための取組の充実が進んでいます

具体的な取組

- 児童の安全・安心な環境確保に向けて、登下校時における見守り活動を充実させた。登下校の様子等の情報共有をしたことで、登下校の見守りボランティア活動として保護者の協力があつた。
- 学校運営協議会で協議したクリーンナップデーを、PTAの協力のもと実施することができた。参加した保護者からは、子どもの普段の学校生活における様子をみる機会となったとの声があり、好評であった。
- 生徒の登下校の安全を確保するため県の土木事務所に道路事情改善の要望書を提出したが、その際、町内会、補導委員、PTAの連携を協議会において検討した。

2 学校運営協議会の運営の工夫

コロナ禍においても幅広い意見をより多く集約できるよう、各学校運営協議会において様々な工夫が行われました

具体的な工夫

- 教育活動を振り返りやすい時期を選んで開催するとともに、当日協議予定の議題について前もって資料を配付し、話し合いがスムーズに進むように心がけた。
- 学校運営協議会では、教育活動の特色や学校評価について、写真、グラフなどを用いて説明することで理解が深まるよう工夫を凝らした。また、学校運営協議会の開催や活動について、保護者や地域への発信を積極的に行い、本制度の周知を図った。
- 委員に授業を参観してもらう等の機会をもった。学校運営協議会で出された意見等を教職員にフィードバックした。

3 課題について

今後のさらなる充実に向けて、一層の情報発信やコーディネート機能の強化、PDCAサイクルの活性化、協働が生まれる仕組みづくり等が求められています

- 地域総がかりの教育活動を展開するためにも、教育内容や学校運営協議会での協議内容を発信し、家庭や地域の理解と協力をさらに得るようにする。
- 幼小、小小、小中、幼中間の連携をコロナ禍でどのように設定するか。小学校間で取り組み始めたオンライン交流を他校種とどのように推進していくのかを今後協議していく。
- 地域コーディネーター等、さらなる人材の発掘が必要である。
- 自校の課題である通学マナーと学力の向上等について地域とともに考え、地域と一体となって取り組む。